



一度は訪れたい！ 日本の世界遺産

- いくつあるか知っていますか？ -

- 福田利雄 -

はじめに

ユネスコの世界遺産条約を日本は 1992 年に締結した。

未来に渡って残すべきと認定された日本国内の世界遺産は、2021 年 7 月の新登録も含め、現時点で「**文化遺産 20 カ所、自然遺産 5 カ所**」の計 25 カ所となっている。

私が、日本の世界遺産に興味を持った理由は二つある。

最近のテレビ番組クイズ形式のものが多く様になっている。安易な作りと思いつつも良く見ているが、なかでも、「あなたは小学校5年生より賢いの？」が面白く一緒に考え回答しているのである。大声で自慢して回答すると隣でカミさんより「うるさい」と言われておりますが…。どの番組か定かには記憶していないが、「日本人ノーベル賞受賞者」、「日本の世界遺産」に関する問題が出された。ノーベル賞は湯川秀樹…、世界遺産は富士山…、パットと思いつくのはその程度であった。調べて見よう…これが一つの理由である。

もう一つは、定年退職後、友人の誘いで200床の老人病院で働く事になり、仕事上必要と思いつつ中古のノートパソコンを購入した。そして勤務 8 年、パソコン使用 8 年が経過し、動作が遅くなり、ソフトウェアも古く、仕事に欠かせない、必要に迫られ、家電専門店「ノジマ電気」で思い切って最新機種 15.6 型のノートパソコンを購入したのである。

新しいパソコンで「日本人ノーベル賞受賞者」、「日本の世界遺産」一覧表作成したい…これが二つめの理由であった。

「日本人ノーベル賞受賞者」一覧表は簡単に作成できた。

実は、日本の世界遺産一覧作成中の 10/5(火)にアメリカ国籍の日本人真鍋淑郎さん 90 歳がノーベル物理学賞を受賞したというニュースが飛び込んできた。受賞者は全員で 30 名となったのである。喜ばしいことである。物理学賞 12 名、化学賞 8 名、医学生理学賞 5 名、文学賞 3 名、平和賞 2 名（1 名は団体受賞）である。一覧表には受賞理由も調べ記入した。お名前を拝見しその受賞時の記憶が呼び起こされる事が多かった。本稿の付録として最終ページに添付する事にした。(Excel A4-2 頁の表を 1 頁に：見づらいかも…)

◎日本の世界遺産(文化遺産)一覧作成

(1) Excel(エクセル)にて世界遺産登録順に名称・所在地・登録年・区分で作成した

参照:文化庁のホームページ:文化遺産 [日本の世界遺産一覧 | 文化庁 \(bunka.go.jp\)](https://www.bunka.go.jp/)

(2) 日本の世界遺産(文化遺産 20 カ所)については文化庁ホームページからのリンク先(下記 URL)

[世界遺産 文化遺産オンライン \(nii.ac.jp\)](https://www.nii.ac.jp/) を参照し、画像はコピーし、Word 文章内に貼り付け、概要説明文はそのまま引用した。但し、文章はコピーペーストするのではなく、一字一句手入力ですべてワープロ入力した。

ボケ防止の意味、世界遺産に選ばれた理由、遺産名称地等の概略説明等をより深く理解する意味もあった。

後で確認したところ誤字脱字もいくつか見受けられたがすべて修正したつもりである。

新しいパソコン、反応も早く円滑に作成することができた。

*** 日本の世界遺産一覧 1993～2021 ***

登録順	世界遺産名称	所在地	登録年		区分
			平成	西暦	
1	法隆寺地域の仏教建造物	奈良県	平成5年	1993年	文化
2	姫路城	兵庫県	平成5年	1993年	文化
3	屋久島	鹿児島県	平成5年	1993年	自然
4	白神山地	青森県・秋田県	平成5年	1993年	自然
5	古都京都の文化財 (京都市、宇治市、大津市)	京都府・滋賀県	平成6年	1994年	文化
6	白川郷・五箇山の合掌造り集落	岐阜県・富山県	平成7年	1995年	文化
7	原爆ドーム	広島県	平成8年	1996年	文化
8	厳島神社	広島県	平成8年	1996年	文化
9	古都奈良の文化財	奈良県	平成10年	1998年	文化
10	日光の社寺	栃木県	平成11年	1999年	文化
11	琉球王国のグスク及び関連遺産群	沖縄県	平成12年	2000年	文化
12	紀伊山地の霊場と参詣道	三重県・奈良県・和歌山県	平成16年	2004年	文化

13	知床	北海道	平成17年	2005年	自然
14	石見銀山遺跡とその文化的景観	島根県	平成19年	2007年	文化
15	小笠原諸島	東京都	平成23年	2011年	自然
16	平泉-仏国土(浄土)を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群	岩手県	平成23年	2011年	文化
17	富士山-信仰の対象と芸術の源泉-	山梨県・静岡県	平成25年	2013年	文化
18	富岡製糸場と絹産業遺産群	群馬県	平成26年	2014年	文化
19	明治日本の産業革命遺産 製鉄・製銅、造船、石炭産業	福岡県・佐賀県・長崎県・熊本県・鹿児島県・山口県・岩手県・静岡県	平成27年	2015年	文化
20	ル・コルビュシエの建築作品-近代建築運動への顕著な貢献-	東京都 *フランス・ドイツ・スイス・ベルギー・アルゼンチン・インド	平成28年	2016年	文化
21	「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群	福岡県	平成29年	2017年	文化
22	長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産	長崎県・熊本県	平成30年	2018年	文化
23	百舌鳥・古市古墳群-古代日本の墳墓群-	大阪府	令和元年	2019年	文化
24	奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島	鹿児島県・沖縄県	令和3年	2021年	自然
25	北海道・北東北の縄文遺跡群	北海道・青森県・岩手県・秋田県	令和3年	2021年	文化

◎日本の世界遺産(文化遺産) 20カ所



日本の世界遺産が 25 カ所と多く登録されている事を知り、我が日本国の自然と文化の素晴らしさをあらためて認識する事ができた。その多くが文化遺産として登録されている。そして観光地としても有名で多くの人を訪れている。人類全体のための世界の遺産として損傷、破壊等の脅威から保護し、保存して行くことが重要であることは当然の考え方である。世界遺産に登録し保護して行くことはとても大事な事と思う。

私自身、修学旅行(中学・高校時代)、家族での観光の旅、仕事上の研修、一人旅・・・等でこれまで行ったことがあるかどうか記憶を遡ってみた。文化遺産では、京都、奈良、法隆寺、姫路城、白川郷、厳島神社、日光、沖繩、紀伊山地、平泉中尊寺、富士山登山、国立西洋美術館(東京)、長崎・・・13カ所、自然遺産では、北海道の知床の1カ所のみ・・・合計14カ所訪れていた様であった。多くは世界遺産として認識していなかったと思う。世界遺産との表示(看板)あったかも知れないが重要性の認識なく軽視していたかもしれない。今回の日本の世界遺産一覧作成(文章・写真)でその重要性が理解出来たことは本当に良かったと思っている。そして、当時の旅の思い出が懐かしくよみがえった機会でもあった。

以下、日本の世界遺産(文化遺産 20カ所)については文化庁ホームページを参照してまとめてみた。

[世界遺産 文化遺産オンライン \(nii.ac.jp\)](https://www.wwhp.go.jp/) 掲載画像はコピーし、Word 文章内に貼り付けた。

概要説明文は、前にも記載したが、ほぼ、そのまま引用した。

但し、文章はコピーペーストするのではなく、一字一句手入力でワープロ入力した。

大変であったが、よく理解できた、ボケ防止にも役立ったかも・・・一部、読み仮名、説明文加えた。

① 法隆寺地域の仏教建造物（世界遺産登録年：1993年）



法隆寺地域には世界最古の木造建築が数多く残っています。7世紀に法隆寺・法起寺ほかの仏教寺院が造営され、これらの寺院では現在も宗教活動が続けられています。法隆寺は、7世紀初期に創建がはじまり、現在の伽藍は西院及び東院と子院群で構成されています。西院は7世紀後半から8世紀初頭にかけて再建されたもので、東院は8世紀前半に建設されたものです。

西院の主要建物である金堂・五重塔・中門・回廊は、中国や朝鮮にも残存しない初期の仏教建築様式であり、両院のほかの主要建物は主に8世紀から13世紀に建てられたものです。両院の周囲にある子院は12世紀ごろに建築が始まり、しだいにその数を増やしました。17世紀から18世紀にかけての建物も多く、日本の仏教寺院建築の変遷を窺うことのできる文化遺産が集約されている地域と言えます。法起寺は7世紀に創建された寺院ですが、いまは706年に完成した三重塔のみが残っており、法隆寺西院と同様初期の仏教建築様式による建物です。

② 姫路城（世界遺産登録年：1993年）



木造の建物を配し、石造の城壁と白色の土塀をめぐらせる日本の独特の城郭の様式は16世紀中頃に確立しました。姫路城はこの城郭建築の最盛期の遺産であり、17世紀初頭の日本の城郭を代表するものです。日本の城の中でも、木造の城郭建築群と城壁・土塀から構成される構造物が特に良く残っています。この城は、白壁で統一された優美な外観から、白鷺城の別称があり、その名でも広く知られています。姫路は西日本の交通の要衝の地にあたり、1600年に城主となった大名池田輝政が翌年から1609年にかけてこの地にあった古城を廃して新たに城を建造しました。現在残る姫路城の構造物や建物はこの時のもので、周囲は内外二重の濠で囲まれています。



内濠と高い石垣に囲まれた内郭地域には城柵主要部と城主の居館が造営され、内濠と外濠のあいだの外郭地域には武家屋敷がありました。その外は一般民衆の居住地と商業地からなる城下町であり、その周囲にも濠が巡っていました。内郭地域の城郭建築は当初の姿がほぼ完全に残っており、外郭地域とあわせて、整備基本構想のもとに保存・整備が進められています。

⑤ 古都京都の文化財（京都市、宇治市、大津市）世界遺産登録年：1995年）



金閣寺（金閣寺）



清水寺



慈照寺



天龍寺庭園



龍安寺庭園

京都は 794 年から 1868 年にかけて天皇が居所をおいた日本の首都であり、武家政権が政治の中心を鎌倉と江戸に移した時期以外、文化・経済・政治の中心として繁栄しました。

京都は北、西、東の三方を丘陵に囲まれた盆地という地理的特徴を利用して建設された都市です。中央の平地部では、幾多の兵火に見舞われて火災が頻発し、多くの建物などが失われては再興されるという繰返してした。しかし、周辺の山麓部は災害を免れ、起伏に富んだ自然地形を利用して建てられた大寺院や山荘・庭園がいまでも多数残されています。平地部にも東寺や二条城などの大きな規模の記念物や各種の伝統的な住宅様式を示す町並みなどの文化遺産が、条坊制の中に残っています。

8 世紀に創建された東寺には、11 世紀から 19 世紀にいたる各時代の建物が建ち並び、16 世紀に建造された二条城には、広大な敷地に当時の華やかな建物が残っています。

⑥ 白川郷・五箇山の合掌造り集落（世界遺産登録年：1995年）



白川村



相倉集落



菅沼集落

白川郷の集落は大型の木造民家群から構成されています。茅葺きの合掌づくりの大きな屋根の下は 3~5 階からなり、1 階は広い居室空間、2 階以上は屋根裏部屋の寝室あるいは作業空間となっています。1 棟には数十人からなる大家族が住むのが一般的でした。この種の 18・19 世紀の民家約 50 棟が集中して残る荻町地域は、山間の田畑のなかに位置し、周囲を広葉樹林が囲み、民家は中央の谷筋の方向に平行して棟を並べ、急勾配の茅葺屋根とあいまって、独特の集落景観を構成しています。

白川郷は本州のほぼ中央の山間部にあります。この地は 17 世紀末期から江戸幕府の直轄支配下にあり、住民の多くは農耕のほかに山林樹木の伐採・搬出や養蚕を生業としていました。民家内の屋根裏部屋では、養蚕の作業なども行なわれていました。また、「結」と呼ばれる住民の相互扶助組織があり、屋根の葺き替えなどの家屋維持を共同して行なう慣習が残る点も興味深いものです。居住と作業のための大規模な空間をもち、大家族が暮した民家の連なる白川集落は、世界的にもユニークな景観を成しています。

⑦ 原爆ドーム（世界遺産登録年：1996年）



原爆ドームは広島県の物産の改良増進を図り、産業の発展に貢献する目的で、大正4年4月に建設された広島県物産陳列館で、チェコの建築家ヤン・レルツが設計したものです。北方の中国山地から広島湾へと流れる太田川が形成したデルタ上、太田川（本川）と元安川の分岐する地点が建設場所選ばれ、その河岸約2,310平方メートルを埋め立て、旧広島藩の米倉と民有地を整地して加え、全体で約3,200平方メートルを敷地として使用していたといわれます。

建物は、煉瓦と鉄筋コンクリートで作られた3階建てで、正面中央階段室を5階建てドームとし、一部に地階を有していました。屋根のドーム部分は銅板葺、そのほかはスレート葺とし、ドーム先端までの高さはおよそ25メートル、建築面積はおよそ1,002平方メートルでした。また、噴水池をもつ洋風庭園や、四阿（あずまや、しあ）をもつ和風庭園も整備されていました。

建物は原爆の爆心地から北西約160メートルの至近距離にあり、熱線と爆風を浴びて大破、全焼しました。しかし、爆風が上方（爆発点高度約580メートル）からほとんど垂直に働いたため、ドーム中心部は奇跡的に倒壊を免れたと考えられています。「原爆ドーム」という呼び名は、建物の頂上天蓋の残骸が傘状になっている姿から「いつ頃からともなく、市民の間から誰ということもなく自然に言い出された」といわれています。

⑧ 厳島神社（世界遺産登録年：1996年）



厳島神社（いつくしまじんじゃ）は瀬戸内海の島を背後にして、その入江の海のなかに木造建物が建ち並ぶ日本でも珍しい神社です。社殿構成は12世紀にはじまりましたが、その後焼失し、1241年に再建されました。海に建つ木造建物として過酷な環境下にありながら、歴代政権の厚い庇護に支えられて、古い様式を今日に伝えています。

社殿背後の厳島は約30平方キロメートルの島で、特別史跡及び特別名勝に指定されています。古くから主峰である弥山（みせん）（海拔530m）が崇敬の対象となり、島全体が神聖視されていました。ここに神社が造営されたのもその故であると考えられます。また、厳島の緑濃い森林が海岸線に迫る美しい自然景観は、17世紀頃から「日本三景」の一つとして称えられてきました。特異な構造をもつ厳島神社はこのような自然景観の中、海に向かって建ち並んでいます。

⑨ 古都奈良の文化財（世界遺産登録年：1999年）



元興寺



唐招提寺



薬師寺



春日山原始林



春日大社



平安遷都



東大寺

東大寺、興福寺、春日大社、元興寺、薬師寺、唐招提寺、平城宮跡、春日山原始林の8資産からなる世界遺産である。宮殿の遺跡と都に計画的に建設された木造建築群、自然の山や森が一体となった文化的景観が守られていることが特徴です。奈良は、710年から784年までの日本の首都であり、政治・経済・文化の中心として栄えました。この時代に中国(唐)との交流を通して日本文化の原型が形成されました。また、首都が京都へ移った後も、大社寺を中心とした地域が宗教都市として存続して、繁栄しました。

平城宮は首都の北部中央に設けた天皇の居所であり、それに行政機関の施設が付属したものです。当時の宮殿や役所などの木造建築の遺構は今でも地下に良好に保存されています。首都とその周辺に造営された多くの社寺は、現在も法灯を伝えており、8世紀の堂宇をはじめ各時代の建物が残っています。

(堂宇(どうう)とは、四方に張り出した屋根(軒)をもつ建物。仏教寺院では金堂、本堂、講堂、法堂などをいう)

薬師寺・唐招提寺には、8世紀の日本古代建物が残っており、これらは当時の仏教寺院の伽藍を代表するものです。東大寺・興福寺は、主要部分については兵火によって創建当初のものが失われましたが、広大な境内地のなかには8世紀の建物が一部残っています。



東大寺



奈良公園放し飼いの鹿



唐招提寺

失われたものの多くは12世紀に再興されました。再興に際しては、当時の新しい中国の建築技術が導入され、その代表的建物が東大寺南大門です。また、8世紀に再興された東大寺の金堂は世界最大の木造建物です。春日大社の建物は主に19世紀中頃に再建されたもので、日本の本格的な神社の伝統によって20年毎の造り替えが繰り返されていて、伝統の様式を今に伝えています。

参照 URL:画像および文章

[古都奈良の文化財 | アジア, 日本 | 世界遺産ガイド \(world-heritage.net\)](http://world-heritage.net)

⑩ 日光の社寺（世界遺産登録年：1999年）



日光二荒神社



男体山と登録地



三仏堂



上空写真

日光は、徳川初代将軍家康の霊廟である東照宮が1616年に造営されて以来、徳川幕府の聖地となりました。東照宮は、その後1636年に全面的に大規模な造り替えが行われ、現在の規模・構造になりました。さらに、1653年には3代将軍家光の霊廟である大猷院(たいゆういん)が造営されました。8世紀以来、日光は男体山を中心とする山岳信仰の聖地であり、山麓や中禅寺湖畔にははやくから社寺が営まれていました。

東照宮が造営された男体山の東麓には、さきに輪王寺と二荒山神社があり、それらをあわせて大規模に造営されました。幕府が総力をあげて造営した建物は、人物・動物・植物などの彫刻を多用し、漆塗や彩色、飾り金具などで華やかに飾られています。

⑪ 琉球王国のグスク及び関連遺産群（世界遺産登録年：2000年）



識名園



今帰仁城跡



園比屋武御嶽石門



中城城跡

琉球列島は日本列島南端に位置します。14世紀中頃には三王国が分立していましたが、15世紀前半にこれらを統一して琉球王国が成立しました。

中国・朝鮮・日本・東南アジア諸国との広域の交易を経済的な基盤とし、当時の日本の文化とは異なった国際色豊かな独特の文化が形成されました。その特色を如実に反映している文化遺産が城(グスク)です。

今帰仁城(なきじんじょう)・座喜味城(ざきみじょう)・勝連城(かつれんじょう)・中城城(なかぐすくじょう)は、いずれも三国鼎立期から琉球王国成立期にかけて築かれた城であり、首里城は琉球王がその居所と統治機関を設置するために築いたものです。これらの城壁は、主として珊瑚石灰岩により造営されており、曲面を多用した琉球独自の特色を備えています。さらに、王室関係の遺跡として円覚寺跡、玉陵、識名園(別邸)が残り、王国文化をうかがうことができます。

⑫ 紀伊山地の霊場と参詣道（世界遺産登録年：2004年）



熊野参詣(伊勢路:熊野の鬼ヶ城附獅子巖)



金剛峯寺(金剛三昧院多宝塔)

紀伊山地は本州最南端、太平洋に張り出す紀伊半島に位置し、標高 1,000m～2,000m 級の山脈が縦横に走り、年間 3,000mm を超える豊かな降水量が深い森林をはぐくむ山岳地帯です。

紀伊山地は太古の昔から自然信仰の精神を育んだ地で、6 世紀に仏教が伝来した以降、紀伊山地は真言密教をはじめとする山岳修行の場となりました。中でも、山岳修行により超自然的能力を獲得することを目的として 10 世紀中ごろから 11 世紀代に成立した修験道は、特に大峰山系の山岳地帯を中心的な修行の場としていました。

また、9～10 世紀に広く流布した「神仏習合」思想(日本古来の神々は仏教の諸尊が姿を変えて現れたものとする日本固有の思想)の聖地としても信仰を集めていました。

さらに、10～11 世紀頃の日本では「末法思想」(仏法が衰え世も末になるという思想)が流行し、死後に阿弥陀仏の居所である極楽浄土に往生することを願う「浄土宗」という仏教の教えが貴族や庶民の間に広まりました。これに伴って、都の南方に広がる紀伊山地には仏教諸尊の浄土があると信じられるようになり、この地の霊場としての性質がますます強まりました。この地方の神聖性がことさら重要視されるようになった背景には、深い山々が南の海に迫るといった独特の地形や、両者が織り成す対照的な景観構成などが大きく影響していたものと考えられています。

「紀伊山地の霊場と参詣道」の魅力

このような特有の地形及び気候、植生などの自然環境に根ざして育まれた多様な信仰の形態を背景として、「吉野・大峯」、「熊野三山」、「高野山」と呼ばれる顕著な三つの霊場とそれらを結ぶ「参詣道」が形成されました。



紀伊山地に位置する 3 つの霊場(熊野三山、高野山、吉野・大峯)と、霊場へと続く参詣道で構成されています。その代表格ともいえるのが、熊野三山(熊野本宮大社、熊野速玉大社、熊野那智大社)へと続く参詣道として古くから多くの旅人が歩いた熊野古道です。

参照 URL:画像および文章

[世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」の特徴と見どころを厳選して紹介|OnTrip JAL](#)

⑭ 石見銀山遺跡とその文化的景観（世界遺産登録年：2007年）



金屋間歩（かまやまぶ）



大森町



温泉津の町並み



大久保間歩

石見銀山遺跡は日本海に面する島根県のほぼ中央に位置し、石見銀の採掘・精錬から運搬・積み出しに至る鉱山開発の総体を表す「銀鉱山跡と鉱山町」、「港と港町」、及び

これらをつなぐ「街道」から成っています。この遺跡は、東西世界の文物交流及び文明交流の物証であり、伝統的技術による銀生産を証明する考古学的遺跡及び銀鉱山に関わる土地利用の総体を表す文化的景観としての価値を持っています。

⑯ 平泉-仏国土(浄土)を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群（世界遺産登録年：2004年）



毛越寺(庭園)



中尊寺(金色堂)



毛越寺(常行堂)



観自在王院跡



無量光院跡から望む金鶏

平泉は、11世紀～12世紀の日本列島北部領域において、仏教に基づく理想世界の実現を目指して造営された政治・行政上の拠点です。

その拠点に存在する4つの庭園は、奥州藤原氏により、現世における仏国土(浄土)の象徴的な表現、つまり池泉・樹林・金鶏山頂と関連して仏堂を周到に配置することにより実体化した理想郷の光景として造営されました。4つの庭園のうち3つは、神聖な山である「金鶏山」に焦点を合わせており、浄土思想の理想と、庭園・水・周辺景観の結びつきに関する日本由来の概念との融合を例証しています。また、浄土庭園のうち2つは、発掘調査により発見された多くの詳細事項に基づき復元されたものであり、他の2つは現在も地下に埋蔵されたまま残されています。さらに、重厚に金箔を貼った中尊寺の仏堂は、12世紀から残る唯一のものであり、奥州藤原氏の巨大な富を反映しています。

このかつての巨大な政治・行政上の拠点に存在し、浄土庭園、12世紀から残存する顕著な仏堂、神聖なる金鶏山との関係を伴う4つの寺院仏堂の複合体は、平泉の財力を反映する類い希なる集合であり、日本の他の都市の仏堂や庭園にも影響を与えた計画・庭園の意匠設計に関する概念を表しています。

⑰ 富士山-信仰の対象と芸術の源泉- (世界遺産登録年:2013年)



富士山は、標高 3,776mの極めて秀麗な山容を持つ円錐成層火山で、南面の裾野は駿河湾の海浜にまで及び、山体の海面からの実質的な高さは世界的にも有数である。古くから噴火を繰り返したことから、霊山として多くの人々に畏敬され、日本を代表し象徴する「名山」として親しまれてきた。山を遙拝する山麓に社殿が建てられ、後に富士山本宮浅間大社や北口本宮浅間神社が成立しました。平安時代から中世にかけては修験の道場として繁栄したが、近世には江戸とその近郊に富士講が組織され、多くの民衆が富士禪定を目的として大規模な登拝活動を展開しました。このような日本独特の山岳民衆信仰に基づく登山の様式は現在でも命脈を保っており、特に夏季を中心として訪れる多くの登山客とともに、富士登山の特徴をなしています。また、『一遍聖絵』をはじめ、葛飾北斎による『富嶽三十六景』などの多くの絵画作品に描かれたほか、『万葉集』や『古今和歌集』などにも富士山を詠った多くの和歌が残されています。

⑱ 富岡製糸場と絹産業遺産群 (世界遺産登録年:2014年)

富岡製糸場と絹産業遺産群は、世界経済の貿易を通じた一体化が進んだ 19 世紀後半から 20 世紀にかけて、高品質な生糸の大量生産の実現に貢献した技術交流と技術革新を示す集合体です。その結果、世界の絹産業の発展と絹消費の大衆化がもたらされました。

この技術革新は、製糸技術の革新と、原料となる良質な繭の増産を支えた養蚕技術の革新の双方が相まって成し遂げられました。本資産は、製糸とこれを支える養蚕の技術革新の過程を示す構成要素を併せ持ち、生糸を生産する過程全体を今日に伝える顕著な見本です。



富岡製糸場



田島弥平旧宅

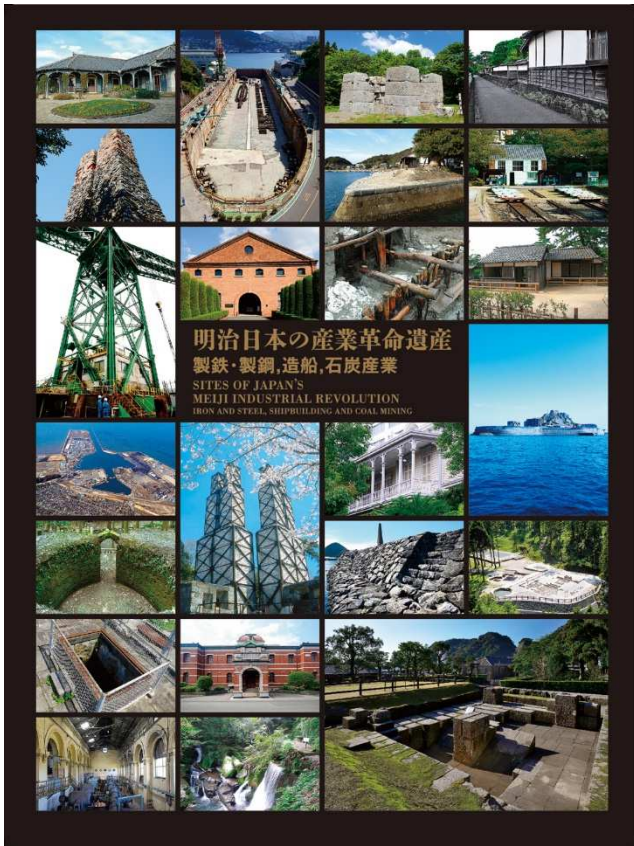


荒船風穴



高山社跡

① 明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業
(世界遺産登録年:2015年)



端島炭坑(軍艦島)

「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」は西洋から非西洋への産業化の移転が成功したことを証言する産業遺産群により構成されている。19世紀後半から20世紀の初頭にかけて、日本は工業立国の土台を構築し、後に日本の基幹産業となる造船、製鉄・製鋼、石炭と重工業において急速な産業化を成し遂げた。一連の遺産群は造船、製鉄・製鋼、

石炭と重工業分野において1850年代から1910年の半世紀で西洋の技術が移転され、実践と応用を経て産業システムとして構築される産業国家形成への道程を時系列に沿って証言している。

② ル・コルビュシエの建築作品-近代建築運動への顕著な貢献-
(世界遺産登録年:2016年)



ル・コルビュシエが設計した国立西洋美術館(上野公園)

パリを拠点に活躍した建築家・都市計画家ル・コルビュシエの作品のなかから選ばれた三大陸7か国(フランス・日本・ドイツ・スイス・ベルギー・アルゼンチン・インド)に所在する17資産で構成される。

(日本では、国立西洋美術館が選ばれている)

本資産は建築史上初めて、建築の実践が全地球規模のものとなったことを示す物証であり、各構成資産は近代の社会的、人間的ニーズへ対応した建築の新しいコンセプトを反映し、広い地域に重大な影響を与え、いまだに少なからず21世紀建築文化の基盤であり続けている。

②① 「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群（世界遺産登録年：2017年）



宗像大社沖津宮(沖ノ島)



宗像大社沖津宮遙拝所



宗像大社中津宮



宗像大社辺津宮



新原・奴山古墳群

『「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群』は、「神宿る島」沖ノ島を崇拝する文化的伝統が、古代東アジアにおける活発な対外交流が進んだ時期に発展し、海上の安全を願う生きた伝統と明白に関連し今日まで継承されてきたことを物語る稀有な物証です。

沖ノ島には、4世紀から9世紀の間の古代祭祀の変遷を示す考古遺跡が、ほぼ手つかずの状態現代まで残されてきました。古代祭祀遺跡を含む沖津宮、中津宮、辺津宮は、宗像大社という信仰の場として現在まで続いています。そして、その信仰を担い育んだ宗像氏の存在を物語る資産が、新原・奴山古墳群です。

②② 長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産（世界遺産登録年：2018年）



原城跡



平戸の聖地と集落
(春日集落と安満岳)



平戸の聖地と集落(中江ノ島)



天草の崎津集落



外海の出津集落



外海の大野集落



黒島の集落



野崎島の集落跡



頭ヶ島の集落



久賀島の集落

本資産は、禁教時代の長崎と天草地方において、既存の社会・宗教とも共生しつつ信仰を密かに継続した「潜伏キリシタン」の伝統を物語る稀有な物証です。

潜伏キリシタンの文化的伝統が形成される契機となる出来事が考古学的に明らかにされている原城跡、潜伏キリシタンが密かに信仰を維持するために様々な形態で他の宗教と共生を行った集落(平戸の聖地と集落・天草の崎津集落・外海の出津集落・外海の大野集落)、信仰組織を維持するために移住を行った離島部の集落(黒島の集落・野崎島の集落跡・頭ヶ島の集落・久賀島の集落・奈留島の江上集落(江上天主堂とその周辺)), 潜伏キリシタンの伝統が終焉を迎える契機となった出来事が起こり、各地の潜伏キ



撮影: 池田勉

奈留島の江上集落(江上天主堂とその周辺)

リシタン集落と関わった大浦天主堂から構成されています。

② 百舌鳥・古市古墳群-古代日本の墳墓群- (世界遺産登録年:2019年)



百舌鳥古墳群(堺市提供)



古市古墳群(羽曳野市教育委員会提供)

百舌鳥・古市古墳群は、古墳時代の最盛期であった4世紀後半から5世紀後半にかけて、当時の政治・文化の中心地のひとつであり、大陸に向かう航路の発着点であった大阪湾に接する平野上に築造されました。

世界でも独特な、墳長500メートル近くに達する前方後円墳から20メートル台の墳墓まで、大きさと形状に多様性を示す古墳により構成されています。墳丘は葬送儀礼の舞台であり、幾何学的にデザインされ、埴輪などで外観が飾り立てられました。

本資産は、土製建造物のたぐいまれな技術的到達点を表し、墳墓によって権力を象徴した日本列島の人々の歴史を物語る顕著な物証です。

㊦ 北海道・北東北の縄文遺跡群（世界遺産登録年：2021年）



三内丸山遺跡



御所野遺跡



大湯環状列石



北黄金貝塚

「北海道・北東北の縄文遺跡群」は、1万年以上にわたり採集・漁労・狩猟により定住した人々の生活と精神文化を伝える文化遺産です。北海道・青森県・岩手県・秋田県に所在する17の遺跡で構成されています。

本資産が位置する北海道・北東北は、山地、丘陵、平地、低地など、変化に富んだ地形であり、内湾や湖沼及び水量豊富な河川も形成されています。ブナやミズナラ、クリ、クルミなどで構成される冷温帯落葉広葉樹（北方ブナ帯）の森林が広がり、海洋では暖流と寒流とが交差することによって豊かな漁場が生まれ、サケやマスなどの回遊魚が遡上するなど、北東アジアの中でも恵まれた環境にありました。

人々は、この環境の下で育まれた森林資源を管理しながら利用し、食料を安定して確保するとともに、採集・漁労・狩猟を基盤として約15,000年前から土器を使用して、定住を開始しました。その後、気候変動及びそれによる海水面の上昇・下降、火山噴火などの環境の変化に巧みに対応しつつ、集落を形成し、発展させ、成熟させました。本資産はその変遷過程を、物証をもって余すことなく説明することができます。

さらに、墓地、環状列石、貝塚、盛土遺構等の祭祀的な空間や構造物を構築・発展させ、母性を表現したとされる土偶に見られるような独特の精神文化を育み、成熟した定住を営みました。

参照 URL:画像および文章

[日本の世界遺産一覧 | 文化庁 \(bunka.go.jp\)](http://bunka.go.jp)

[世界遺産 文化遺産オンライン \(nii.ac.jp\)](http://nii.ac.jp)

◎ 日本の世界遺産(自然遺産) 5カ所

ユネスコの世界遺産の分類について調べてみた。世界遺産は主に3つに分けられている。

- ① 文化遺産：文化の多様性や歴史を伝える建築物などが挙げられている。
- ② 自然遺産：他に類を見ない生態系を維持した島や山野、湿地帯などが挙げられている。
- ③ 複合遺産：文化遺産と自然遺産の両方を兼ねるものが挙げられて。
- ④ 危機遺産：気候の変動や遺跡の劣化などで、消滅の危機にある遺産は危機遺産として分類されている。

日本の世界遺産(自然遺産)登録への取組および管理は 環境省 が行っている。

③ 屋久島 (世界遺産登録年:1993年)



屋久島(やくしま)は、①樹齢 1000 年を超える屋久杉を含む原始的な自然林が美しい自然景観を生みだしていること ②亜熱帯植物から亜寒帯植物が海岸線から山頂へと連続的に分布する植生の垂直分布が見られること、などが評価され、1993 年、自然遺産に登録された。登録地域は、西部の海岸線から中央の山岳部にかけての地域で、その面積は島面積の 21%にあたる 10,74 ヘクタール。

緩衝地帯は設定されていない。屋久島の多くの地域は、自然公園法に基づく「特別保護地区」、自然環境保全法に基づく「屋久島原生自然環境保全地域」、林野庁による「屋久島森林生態系保護地域」に指定され、複数の保護区で保護されている。

参照 URL:使用画像および文章

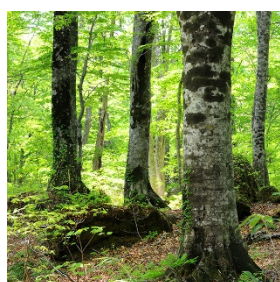
[屋久島 - 日本の世界遺産 \(heiwa-ga-ichiban.jp\)](http://heiwa-ga-ichiban.jp/)

[屋久島 - Bing images](#)

④ 白神山地（世界遺産登録年：1993年）



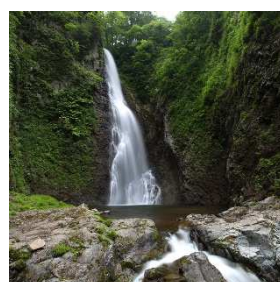
白神山地(しらかみさんち)は、青森県から秋田県にまたがる山地帯の総称。屋久島とならんで1993年(平成5年)12月、日本で初めてのユネスコ世界遺産(自然遺産)に登録された。そこには「人の影響をほとんど受けていない約5,000万年前の北極周辺の植生に近い原生的なブナ天然林が世界最大級の規模で分布」(世界遺産登録理由)と記されている。白神山地の名称は、昭和29年発行国土地理院地勢図で使われている。また、世界遺産登録以前には弘西山地(こうせいさんち)とも呼ばれていた。この地には、絶滅危惧種に指定されているイヌワシやクマゲラも生息している。



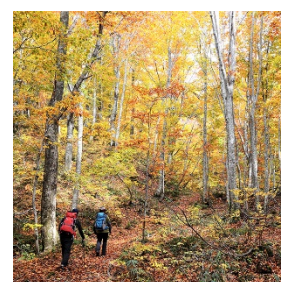
岳岱自然観察教育林



十二湖



暗門の滝



小岳

岳岱自然観察教育林:

岳岱自然観察教育林では、原生的なブナ林を気軽に味わえる1.8kmの周遊型散策道が整備されている。世界自然遺産の核心地域は、自然保護のために訪れるのが容易ではないが、ここでは核心地域とほぼ同じ自然や生態系を体感することが可能である。

十二湖:

「青池」をはじめとして、白神山地の一角にある33の湖の総称である「十二湖」。大崩の展望地から12の池が見えることから、その名がついたといわれている。個性豊かな湖と森は、動植物の生命を育むだけでなく、人間にとっても森林セラピーとして癒し効果があると思われる。

暗門の滝:

自然遺産のバッファゾーンにある暗門の滝は、この地方で母なる川とされる「岩木川」の支流が流れ落ちた3つの大きな滝を総称している。観賞的価値が高い名勝地として人気であるが険しい岩壁に囲まれ立ち入りが制限されることもあるとのこと。ガイド同行で自然保護のためのマナーを守って目指すのが良いとされる。

小岳:

標高1,043mの小岳。上りは約2時間、下りは約1時間半と半日の登山コースでありながら、山頂付近は世界遺産登録エリアの緩衝地域に指定されているため、気軽に世界遺産登録地域を楽しめることが魅力である。

参照 URL: 画像および文章

[白神山地 | 日本の世界自然遺産 - Choose your Travel, Choose your Future. - \(world-natural-heritage.jp\)](http://world-natural-heritage.jp/)

[白神山地 - Wikipedia](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%9F%B3%E7%A9%96%E5%B8%B8)

⑬ 知床（世界遺産登録年：2005年）



知床半島は北海道の北東部に位置し、火山活動などによって形成された標高 1,500m 級の急峻な山々、切り立つ海岸断崖、湿原・湖沼群などにより構成されています。

- (1) 季節海水（流水）が接岸することにより、海の生態系と陸の生態系が関係しあう特異な生態系が見られること。
- (2) 国際的希少種の生息地越冬地になっているなど、生物多様性にとって重要な地域であること



などが評価され、2005年、自然遺産に登録された。

遺産地域はこの知床半島の中央部から先端の知床岬にかけての陸地と、その周辺の海、沖合 3km を含む地域で、その面積は、緩衝地帯を含め約 71,100ha である。

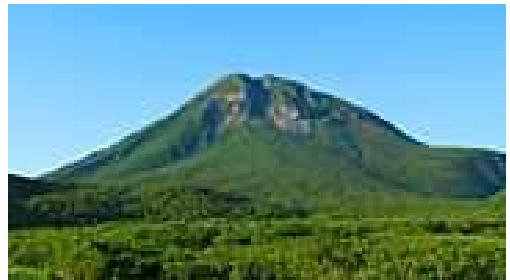
知床の多くの地域は、遠音別岳（おんねべつだけ）から知床岬にかけての原生的な自然環境を有する地域と、流水が流れつき海洋生物が豊かな海域からなり、知床国立公園、遠音別岳原生自然環境保全地域、知床森林生態系保護地域、国指定知床鳥獣保護区などに指定され、複数の保護区で保護されている。



岩尾別川



カムイワッカの滝



羅白岳



プユニ岬



ウトロ港を埋める流水



知床岬

参照 URL:画像および文章

[世界自然遺産 | 知床自然センター公式サイト \(shiretoko.or.jp\)](http://shiretoko.or.jp)

[知床（世界遺産） - Wikipedia](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%9F%B3%E5%B8%B6)

[知床 - 日本の世界遺産 \(heiwaga-ichiban.jp\)](http://heiwaga-ichiban.jp)

⑮ 小笠原諸島（世界遺産登録年：2011年）



小笠原諸島は、東京から南におよそ 1000km、亜熱帯の海に浮かぶ 30 ほどの島々で構成され、世界遺産に登録されているのは、次のエリア。

- ・聳島列島(むこじまれっとう)
- ・父島列島
- ・母島列島
- ・火山(硫黄)列島の北硫黄島・南硫黄島・西之島

このうち、父島と母島は有人島であり、集落のある地域は世界遺産の区域から除外されている。



小笠原諸島が世界自然遺産に登録された理由は、その豊かな生態系にあります。そもそも、島は、大陸から分離してできた「大陸島」と大陸と陸続きになったことのない「海洋島」に大きく分類することができるのですが、小笠原諸島は後者の「海洋島」にあたります。

誕生からこれまでに一度も大陸と地続きになったことのない小笠原諸島では、生物がそれぞれ独自の進化を遂げ、世界中でそこにしかない「固有種」が数多く生まれました。たとえば、小笠原諸島にすむカタツムリの仲間のうち 90% 以上、約 100 種が固有種なのだとか。また、小笠原諸島には固有種の植物や昆虫類もたくさん見られます。

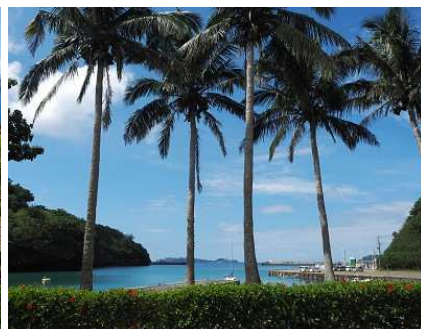
このように、小笠原諸島は、ほかの場所では見られない生態系が見られることが評価され、2011 年に世界自然遺産に登録されました。



扇池(南島)



長崎(父島)



沖港(母島)



大崎湾(母島)

参照 URL:画像および文章

[小笠原諸島 | アジア, 日本 | 世界遺産ガイド \(world-heritage.net\)](#)

[小笠原諸島 - 日本の世界遺産 \(heiwa-ga-ichiban.jp\)](#)

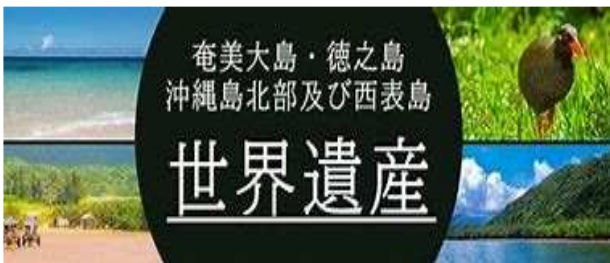
⑭ 奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島（世界遺産登録年：2021年）



ユネスコ世界遺産委員会は 2021年7月26日「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」につき

- ① 大陸から離れ分離結合を繰り返しながら孤立した過程においてアマミノクロウサギ、ヤンバルクイナ、イリオモテヤマネコなど独自に進化した多様な生物がみられること
- ② それらの多くは絶滅が危惧されている希少種であり、生物多様性を保存する上で重要な地域であること

などを評価し、自然遺産への登録を決めた。



日本では 24 番目の世界遺産に、自然遺産としては小笠原諸島以来 10 年ぶりの 5 件目になった。

登録地域は、九州南端から約 1,200km にわたって弧状に点在する琉球列島の一部で、「奄美大島、徳之島、沖縄島北部、西表島」に属する 4 地域である。

■ 奄美大島

島の約 80% が森林で、年間 300mm 以上もの大量の雨により、亜熱帯性常緑広葉樹林と熱帯系の樹林、シダ類などによる豊かな森に覆われている。安定した水量のある住用川河口には国内最北限のマングローブ林が広がっている。大陸から離れた島に残された生物たちは、大陸や日本本土では絶滅したものの環境の変化に対応して生き残ったアマミノクロウサギや、島の条件に適応するため進化したアマミトゲネズミなどが生息している。



■ 徳之島

山岳地帯には、スダジイやオキナワウラジロガシなどの常緑広葉樹が優占する原生林が広がりアマミノクロウサギやトクノシマトゲネズミ、オビトカゲモドキ、トクノシマエビネが生息している。



■ 沖縄島北部

沖縄島北部のやんばる地区は約 80% が森林で、亜熱帯性の多雨林に覆われている。最高峰の与那覇岳（標高 503m）においては年間平均 3,000mm もの降雨量により、豊かな森が広がっている。ヤンバルクイナ、ノグチゲラ、オキナワトゲネズミなどの希少生物が生息している。



■西表島(いりおもてじま)

沖縄県では沖縄本島に次ぐ2番目に大きな島(周囲約 130km)、標高 400m ほどの山々が海岸線にせまり、島の 90%が亜熱帯の原生林で覆われている。また大小合わせて約 40 の川が流れ、その多くの河口にはマングローブ林が広がっている。西表島には肉食獣であるイリオモテヤマネコが小規模な島の環境に適応進化し生態系の頂点に君臨し、カンムリワシ、アカヒゲ、セマルハコガメ、キシノウエトカゲなどが生息している。



参照 URL:画像および文章

[奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島 - 日本の世界遺産 \(heiwa-ga-ichiban.jp\)](http://heiwa-ga-ichiban.jp)

[世界遺産 奄美大島 徳之島 沖縄島北部 及び 西表島 - Bing images](#)

◎あとながき・感想

「あとながき」という程大げさなものではないが日本の世界遺産(文化遺産、自然遺産)を自分なりに編集しまとめる事ができたことは、私自身にとっても役に立つことが多かった。更に新情報を書き加えて行きたいと思っている。

日本だけでなく世界に目を向けると・・

本年、2021年現時点で世界遺産条約締約国は194カ国が参加、世界遺産登録総数は1154件である。(文化遺産897件:自然遺産218件:複合遺産39件:危機遺産52件:登録抹消世界遺産3件)であった。登録数国別ランキングでは(下記表参照)

順位	国名	合計	文化遺産	自然遺産	複合遺産
1位	イタリア	58	53	5	0
2位	中国	56	38	14	4
3位	ドイツ	51	48	3	0
4位	スペイン	49	43	4	2
4位	フランス	49	42	6	1
6位	インド	40	32	7	1
7位	メキシコ	35	27	6	2
8位	イギリス	33	28	4	1
9位	ロシア	30	19	11	0
10位	イラン	26	24	2	0
11位	日本	25	20	5	0
12位	アメリカ	24	11	12	1
13位	ブラジル	22	15	7	1
14位	オーストラリア	20	4	12	4
14位	カナダ	20	9	10	1
16位	トルコ	19	17	0	2

日本は、世界国別ランキングで11位と世界遺産登録数の多い国であった。アメリカとほぼ同じ登録数とは驚きであった。上位のイタリア、中国、ドイツ、スペイン、フランスは観光で訪れた事のある国であり、特に、イタリアのベネツィアには3回旅している。元気なうちにもう一度！スペイン、フランスは複数回旅行している。ヨーロッパの国々には未来に残すべき文化遺産が多く存在していると思われた。お隣の韓国は21位であった。

参考:URL

[世界遺産 国別 登録数ランキング | 世界遺産オンラインガイド \(worldheritagesite.xyz\)](http://worldheritagesite.xyz)

参考：2021/10/5(火)日本の世界遺産作成中、ノーベル物理学賞に日本人 28 番目となる真鍋淑郎さん 90 歳 (アメリカ国籍)が受賞したとのニュースが報道された。早速一覧表に追加した。

受賞順(番号)、26,27 は日本人として数えないようである。

*** ノーベル賞 日本人受賞者一覧 1949～2021 ***

	受賞年	受賞者氏名	受賞部門	受賞理由
1	1949 昭和24年	湯川秀樹 ゆかわひでき	物理学賞	中間子の存在を理論的に予言
2	1965 昭和40年	朝永辰一郎 ともながしんいちろう	物理学賞	量子電磁力学の発展に貢献
3	1968 昭和43年	川端康成 かわばたやすなり	文学賞	非常に繊細で卓越した叙述表現
4	1973 昭和48年	江崎玲於奈 えざきれおな	物理学賞	トランジスタの個体のみでトンネル効果を実証
5	1974 昭和49年	佐藤栄作 さとうえいさく	平和賞	非核三原則の提唱(核兵器をもたず、つぐらず、もちこませず)
6	1981 昭和56年	福井謙一 ふくいけんいち	化学賞	フロンティア軌道理論によって、分子の反応性が軌道の密度・位相に支配されていることを証明
7	1987 昭和58年	利根川進 とねがわすすむ	医学生理学賞	多様な抗体を生成する遺伝的原理の解明
8	1994 平成06年	大江健三郎 おおえけんざぶろう	文学賞	詩的な言語を用いて現実と神話が混交する世界を創造し、窮地にある現代人の姿、見る者を当惑させるようなビジョンに描いた
9	2000 平成12年	白川英樹 しらかわひでき	化学賞	導電性高分子の発見と発展
10	2001 平成13年	野良良治 のりりょうじ	化学賞	キラル触媒による不斉反応の研究
11	2002 平成14年	小柴昌敏 こしばまさとし	物理学賞	超新星からのニュートリノの検出
12	2002 平成14年	田中耕一 たなかこういち	化学賞	ソフトレーザによる質量分析技術の開発で生体高分子の同定および構造解析を可能にした
13	2008 平成20年	小林誠 こばやしさとこと	物理学賞	クォークが自然界に少なくとも三世以上あることを予言する CP対称性の破れの起源の発見(小林・増川理論)
14	2008 平成20年	下村修 しもむらおさむ	化学賞	緑色蛍光タンパク質(GFP)の発見と開発
15	2008 平成20年	南部陽一郎 国籍はUSA なんぶよういちろう	物理学賞	素粒子物理学における、自発的対称の破れの発見
16	2008 平成20年	益川敏英 ますかわとしひで	物理学賞	クォークが自然界に少なくとも三世以上あることを予言する、CP対称性の破れの起源の発見(小林・増川理論)
17	2010 平成22年	鈴木章 すずきあきら	化学賞	パラジウム触媒を用いたクロスカップリングの開発
18	2010 平成22年	根岸英一 ねぎしえいいち	化学賞	パラジウム触媒を用いたクロスカップリングの開発
19	2012 平成24年	山中伸弥 やまなかしんや	医学生理学賞	成熟細胞の初期化を可能にし、様々な細胞に成長できる能力を持つ iPS細胞の作製に成功した。
20	2014 平成26年	赤崎勇 あかさきいさむ	物理学賞	高輝度で省電力の白色光源を可能にした青色ハコウダイオードの発明
21	2014 平成26年	天野浩 あまのひろし	物理学賞	高輝度で省電力の白色光源を可能にした青色ハコウダイオードの発明
22	2014 平成26年	中村修二 国籍はUSA なかむらしゅうじ	物理学賞	高輝度で省電力の白色光源を可能にした青色ハコウダイオードの発明
23	2015 平成27年	大村智 おおむらさとし	医学生理学賞	寄生虫によっておこる、感染症の治療法の発見
24	2015 平成27年	梶田隆章 かじたたかあき	物理学賞	素粒子のひとつニュートリノに質量があることを観測によって証明
25	2016 平成28年	大隅良典 おおすみよしり	医学生理学賞	細胞が不要なたんぱく質などを分解する仕組み「オートファージ」の解明
26	2017 平成29年	石黒一雄 国籍は英国 いしぐろかずお	文学賞	著作「日の名残り」において「世界とつながっているという幻想的な感覚にひそむ深淵」をあらわした。国籍はイギリス、厳密には日本人受賞者ではない
27	2017 平成29年	ICAN 核兵器廃絶国際 キャンペーン	平和賞	あらゆる形の核兵器使用がもたらす壊滅的な結果を人々に気付かせ、核兵器の条約上の禁止実現に向けて画期的な取り組みを進め、核兵器禁止条約の成立を推進した。備考:団体受賞*厳密には世界各国の組織が含まれる団体受賞であるが、日本のNGO(ピースボート他)7団体が参加していた
28	2018 平成30年	本庶佑 ほんじよたすく	医学生理学賞	体内で異物を攻撃する免疫反応に対してブレーキをかける役割をするタンパク質「PD-1」の発見。米テキサス大学のジェームズ・アリソン博士と共同受賞
29	2019 令和元年	吉野彰 よしのあきら	化学賞	スマホの電池のリチウムイオン電池の開発研究、旭化成の名譽フェロー。今回の受賞は、テキサス大学オースティン校教授のジョン・グッドイナフ氏、ニューヨーク州立大学ビンガムトン校教授のスタンリー・ウィティンガム氏との共同受賞。
30	2021 令和3年	真鍋淑郎 国籍はUSA まなべしゅくろう	物理学賞	真鍋氏とドイツのクラウス・ハッセルマン氏(89)は気候変動の物理学モデルで地球温暖化を予測した業績により、物理学賞の2分の1を共同で受賞。残る2分の1はイタリアの理論物理学者、ジョルジオ・パリシ氏(73)が受賞した。

◎物理学賞:12名 ◎化学賞:8名 ◎医学生理学賞:5名 ◎文学賞:3名 ◎平和賞:2名(1名は団体受賞)